海賊とよばれた男 青春の舞台

❶関門海峡
本州と九州を隔てる幅約700メートル（関門橋付近）の海峡を1日約700隻の船が通ります。出光商会の発展のきっかけとなった海上給油の舞台となりました。

計量器付給油船

この男は何かを持っている。困難と言われた機械油販売にこだわり続け、今、誰も思いつかなかった、船の上での軽油販売をおこなっている。並の商売人ではない。…門司と下関の石油特約店たちは、関門海峡を暴れまくる国岡商店の伝馬船を「海賊」と呼んで恐れた。
（百田尚樹「海賊とよばれた男【上】」より）

当時の第一船溜まり

現在の第一船溜まり

❷第一船溜まり
出光商会も第一船溜まりから堀川（運河）を利用して、油を運んでいました。2つの船溜まりを結んでいた堀川も、現在は道路になっています。

鎮西橋跡（手前）と日銀跡

日銀記念碑

❸鎮西橋
第一船溜まりのすぐ東、堀川に架かっていた橋で、日本銀行が袂にありました。今は橋柱だけが残っています。

❹日本銀行跡（現在は栄町公団住宅）
1964（昭和39）年に小倉に移転するまで、金融の中心でした。1階生涯学習センターの玄関横には、記念碑があります。

❺桟橋
出光氏は、連絡船で下関に渡り、漁業会社に安価な燃料油（軽油）の利用を提案して、成功しました。現在も、対岸の下関と約5分で結ばれています。

❻旧大阪商船ビル
1917（大正6）年の建築で、八角形の塔が特徴。1階に大陸航路の待合室がありました。出光氏も創業当初から、度々大陸に渡航しています。

大連航路上屋付近のにぎわい

❼旧大連航路上屋
1929（昭和4）年、旅客の待合室として建てられました。丸みのあるアールデコ調の装飾が特徴です。

海峡ミュージアム

❽門司港駅
九州の鉄道の起点、0哩標があります。改修中の駅舎は、1914（大正3年）に建てられたもので、それまでは200mほど東（山）寄りにありました。

❾旧門司駅跡（九州鉄道記念館）
旧駅の場所には、旧0哩跡があります。創業した頃、出光氏は、ここから筑豊の炭鉱に向かい、機械油の販売を試みました。

❿バナナの叩き売りの碑
日本でバナナの本格輸入が始まったのは、出光商会創業の頃。門司港駅前から山手に延びる桟橋通りでは、船中で熟れたバナナを早く売りさばこうと、バナナの叩き売りが生まれました。

⓫栄町銀天街（みなと祭の出光氏）
「しゃぎり隊」に参加した出光氏は、一際目立ち、西洋人のようだったといわれます。毎年5月に催される門司みなと祭は、出光氏が商工会議所会頭の時に、創設したものです。

⓫甲宗八幡宮
石段上の鳥居は、出光氏が奉納したもので、「甲宗八幡宮」の文字は直筆です。横には石碑もあります。

⓬甲宗八幡下倉庫
出光商会も、堀川倉庫、甲宗八幡下倉庫など、概ね堀川沿いに倉庫を設けていました。

⓭門司文化会館（現在は市民会館）
出光氏は、筑前琵琶を演奏するなど、芸能文化の趣味も豊かで、門司文化会館の建設にも尽力しました。

⓮東本町二丁目本店の初荷
1913（大正2）年、燃料油の海上売買も軌道に乗り、出光商会は、広くてモダンな建物に移転しました。

⓰西本町本店（写真左。右は明治屋）
1922（大正11）年、出光商会は、二十三銀行（大分銀行）ビルの2階に再移転し、以来1965（昭和40）年まで、出光興産㈱門司支店として、入居していました。明治屋と並んでいました。

⓯出光商会創業の地
1911（明治44）年、出光商会を創業した場所には、説明版が設置され、いつもきれいに清掃されています。

⓲三宜楼
山手の清滝方面は、料亭文化が花開いた界隈です。中でも三宜楼は、出光氏などの財界人が好んで通ったといわれます。2014（平成26）年から、一般公開されています。

参考：百田尚樹「海賊とよばれた男【上】」
柳田桃太郎「門司における出光佐三翁の思い出」
出光興産㈱「出光100年史」

背景：東本町二丁目本店の初荷　注）写真16 http://www.uraken.net/rail/travel-urabe51.htmlより転載